

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172000838		
法人名	有限会社 優春		
事業所名	グループホームくれよん		
所在地	小樽市長橋5丁目13番4号		
自己評価作成日	平成23年11月15日	評価結果市町村受理日	平成24年2月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者1人1人の合わせた個性あるケアに取り組んでいます。日々の暮らしの中で生活しながらハビリスすることに力をいれ、思いやり・寄り添う気持ちを大切に、1つの家族のように、地域に密着した明るく楽しいホームを目指し、職員1丸となって日々のケアに取り組んでいます。入居者さんの、持っている力を最大限に発揮できるように支援しています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://system.kaigochoo-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0172000838&amp;SCD=320">http://system.kaigochoo-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0172000838&amp;SCD=320</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3番地北1条ビル3階
訪問調査日	平成23年12月2日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは、開設して6年が経過しています。町内会、家族の方々の大勢の参加や、支援を頂いて開催する2箇所の系列ホームとの合同運動会や夏祭りは、恒例化しており、利用者、家族、町内会、職員が一つになれる場になっています。「100歳の母と楽しむことに感謝です」との家族の言葉があり、「長寿の利用者がホームの誇りです」と職員の言葉があり、「このホームが自慢です」と述べる職員それぞれが、知識、技術習得に励み、より高い質の向上に向けて邁進している「グループホームくれよん」です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができ ている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>I. 理念に基づく運営</b>						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	日々の暮らしの中で絶えず理念を忘れない対応をしている。毎月のミーティングの際にも理念について振り返り、職員みんなの思いがぶれないように確認している。	運営理念は系列の2箇所ホームと共有しています。更に、職員全員の意見が反映されている各ユニット目標を1年毎に策定し、理念や目標がケアサービスに活かされているかを、日常業務や会議等で確認しています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	町内の老人クラブに参加したり、会館の清掃・公園の清掃・町内のゴミ拾いなど地域の活動に入居者さんも参加し、夏祭り・文化祭などでも交流を深め、コミュニケーションをとっている。	町内会行事（収穫祭、花見、花火大会等）や、ホーム行事（共同の運動会、夏祭等）で、交流を深め、相互の理解に繋がっています。地域の方々のホームへの理解と支援に、職員、家族は感謝の意を表しています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議などでホームの現状や、認知症の方々の思いなどをお話させていただき、講習会などを開いて共に理解しながら協力しあっている。			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームの現況・入居者さんの状況・行事への取り組み、反省点など地域包括支援センターや職員にも参加してもらい広く意見を聞き日々のサービスに生かしている。	町内会代表、包括支援センター職員、家族、職員代表で構成され、2ヵ月毎に開催しています。ホームの運営状況、課題、外部評価の公表、地域連携等が議題に上がり、運営に活かしています。町内会長から、行事の際に町内会館の使用の申し出があります。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	グループホーム連絡協議会を通じ、市町村担当者と話す機会を設けてもらうなど積極的にかかわりを持ちようにしている。	行政とは、日頃から連絡を密にし、情報や意見を交換しています。ホームの課題（困難事例等）に対して、適切な助言や提案を頂き、ホームの質の向上に活かしています。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修に参加し職員全員で日々のなかで身体拘束につながりそうなことがないかよく話し合い、意識を高め拘束のないケアを実践している。自分たちだけでは気づかないことがあるので、系列ホームの管理者にアドバイスをもらい振り返りをしている	「身体拘束防止の手引き書」等を活用し、介護で拘束に当たる事例や弊害について話し合い、拘束の無いケアの実践に努めています。徘徊傾向がある利用者の危険回避のため、家族同意の下、時間帯によりユニット入口を施錠することがあります。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会に参加し、勉強会やミーティングで理解してもらうよう取り組んでいる。学んだ事は職員間で情報共有し虐待や身体拘束をしない隠さないケアにとりくんでいる。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度に関する研修に参加し、内容を職員にわかりやすく説明し、理解を深めてもらうようにしている。以前に後見人制度を利用していた方がいたので、わかりやすく身近に支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、料金・おこりうるリスク・事故について丁寧にわかりやすく説明している。家族にとってわかりにくい部分もあるためわかりやすく納得いくまで説明するようにしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の不満や苦情は個別に聞き、出た意見はすぐに職員間で話し合い利用者さん本意の運営を心がけている。家族からの意見もミーティング・申し送り等でよく話し合い運営に反映させている	職員は、利用者の思いを会話から汲み取っています。家族からの意見は殆んど表出されていませんが、職員は、コミュニケーションを図り、ささやかな意見や要望も受け止め、運営に活かす体制を整えています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体ミーティングなどで職員の意見・提案などを聞き仕事に反映している。食事会などでも要望や意見を聞き、ストレスがたまらないようにコミュニケーションを摂っている。	管理者は、日常業務や会議、食事会等で、職員の意見や要望を傾聴しています。運営者は、管理者の判断や職員の主体性を尊重しています。提案を受け、歩行困難な利用者の居室に手すりを設置しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の勤務状態をよく把握し、勤務時間や条件の整備など柔軟に対応している。各自がやりがいを持って仕事が出来るよう良い職場作りを努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1回の内部研修をはじめ、定期的に外部研修にも積極的に参加し、各自のケアに対する質の向上につとめている。働きながらでもどんどん勉強する機会を進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他ホームとの相互訪問実務研修に参加している。研修記録にて内容を共有し、他社では何を重用としているのか等、他社の良い所を学び、役立つ事は自分のホームで実践している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に本人・家族からよく話を聞き、何を思い何がその人にとって良いか求めている事を理解できるように努めている。入居前に何度かホームを見学してもらいよい関係を築いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	現在の状況をよく話し合い今何が困っているか、今までのサービス状況も踏まえてゆっくり話を聞き、その上でどうゆうサービスができるかを細かい所までよく話し合い受け止める努力をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、現在の状況・必要としている支援をよく話し合い、入居が必要と判断した入居者さんに対し事前に見学、昼食に参加してもらうなどして、サービスの利用も含めた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家庭的な関係をモットーに互いに支えあう関係作りに努めている。尊敬する気持ち・感謝する気持ちを忘れずに活動的に生活しお互いに思いやる関係を気づいている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は家族・本人の気持ちを支えながらより良い関係作りのため、日頃の状況をこまめに報告・相談している。ご家族の面会時や行事参加の機会にはご家族の思いや、日々の生活での気付きなどこまめに情報交換している		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔から行っていた美容室に行ったり、月命日にお参りに行くなど、その方その方の生活習慣を大切にしている。思い出の場所・行きたい所など聞き、行事などにも取り込んで断ち切らないようにしている	小樽市内全域が馴染みの人や場所となっています。ふる里訪問や老人会への参加、知人宅訪問や来訪者受け入れ等で、その人らしい暮らし方の支援に努めています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立しないように職員が架け橋となり、楽しく調理や掃除しながら、共有の時間を過ごせる様配慮している。利用者同士の関係がうまくいくように、職員が会話を多く持つようにしたりしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も夏祭りへのお誘いや、くれよん通信を送ったりして関係が断ち切れないように努めている。			
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	3ヶ月ごとにアセスメントを行い、申し送りノート等をしよしながら利用者の思いを共有しています。家族・関係者と良く話し合い本人の気持ちに添えるようにしている	利用者の思いや希望は、生活歴や家族の意見を参考に、日々の関わりでの言葉や仕草、行動から推し量り、職員の共有としています。困難な場合は、利用者の気持ちになって、望む暮らしを検討しています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に本人や家族からこれまでの生活歴などを聞き暮らしのシートに残し、職員全員で共有し、ご本人が安心して暮せるように努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者1人1人ができることをより伸ばせるよう行動や小さな動作からも感じ取り現在の体や心の状態を把握できるようによく観察している			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者がその人らしく暮して行けるよう朝の申し送りなどでもカンファレンスを含めよく話し合い課題となる事は素早くプランに反映させ、ケアマネ・職員・家族と協力して介護計画を作成している	介護計画は、日々の関わりや来訪時、電話等で、利用者、家族の望む暮らし方を把握し、個別の記録や医療関係者の意見を踏まえ、職員全員の意見や気付きをもとに作成し、介護記録にも連動されています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に介護記録を記入し、日常の職員の気づきや状態の変化まで毎日申し送りで話し合い、常に情報を共有しながらケアプランの評価や立案に活かしています。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の思いを大切に、柔軟な支援と日々変化する状況や重度化する状況を踏まえて臨機応変かつ柔軟に職員がサービスを支援している。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	半年に1度の消防訓練・夏祭り・文化祭などの行事でボランティア・民生委員・消防などと連携し、利用者さんが安全に暮せるように支援している。			
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事情所の掛かりつけ医のほか、本人の利用前からのかかりつけ医の受診ができるよう通院したり、家族が通院に行ってくれたり 複数の医療機関と連携をとり支援している。	24時間連絡体制の医療機関による月2回の往診や、希望する医療支援を行っています。診療内容はホームで管理し、関係者に情報を提供しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力病院の看護師とも、月2回の往診以外でも日常の健康管理・薬についてなど気軽に相談でき素早い対応をしている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院に際し、ADLの低下を最小限にする為早期退院に向けて密に情報交換している。病院からホームへ戻ってからの生活もスムーズにできるように病院関係者と相談しながら連携を図っている。			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人の思いを尊重し、終末に対する方針を十分話し合った上で、家族・医師・看護師と連携を取り指示を仰ぎ支援に取り組んでいる。重度化の場合の同意書を作成している	重度化や終末期に於ける対応指針と同意書を整え、重篤が予想される時点で同意書を頂いています。今までに看取りを経験しており、関係者とのチームケアは確立しています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎月1回の全体ミーティング時に急変・事故時のマニュアルの確認・誤嚥時の対応・心配蘇生法の訓練など実施している			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月1回ホーム全体で避難訓練を行い実際の災害に備えて、地域の方々と一緒に実施している。	消防署や町内会の方々の協力を頂き、夜間想定避難訓練を実施し、12月に昼間想定訓練を予定しています。更に、毎月1日に外壁のペルの代用として、時計のチャイムで、災害を外部に知らせるなどの自主訓練を、町内会に周知して実施しています。	訓練後に表出された課題を、次回の訓練に活かしていますが、居室の入口に利用者の歩行状態の表示や、あらゆる風水害を想定しての訓練、コンセンートの点検など、災害時に備えて、更なる取り組みを期待します。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1人1人の思いや尊厳を大切にし言葉け・接する時の態度など本人の誇りやプライバシーを損なわないように対応の徹底を図っている	一人ひとりの人格を尊重し、声かけや対応には十分な配慮に努めています。名前は、家族の同意を頂き、利用者の希望する呼び方をしています。個人情報、事務室内で管理しています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中で常に利用者さんが意思決定できるように声掛け思いを大切にし信頼関係の中から自分で決める喜びを支援している。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1人1人の生活リズムを大切にし、個々の状態や思っていることを大切にしその人らしい生活が送れるよう、希望に添った過ごし方ができるよう支援している			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理容・美容は馴染みの店へ行けるよう家族・職員が協力しあって支援している。身だしなみ・お化粧品も気をつけている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や後片付けは、個人のできるできないを把握し利用者の持っている力や気持ちを大切にしながら楽しく行っている。	利用者の持てる力や要望に添い、三度の食事、おやつ、行事食作りで力を発揮して頂き、充実感やコミュニケーションに繋がる取り組みを行っています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日1500kcalを目安にバランスの取れた食事や1日の水分摂取量をチェックし、その方の体調に合わせた支援している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後1人1人に合わせた口腔ケアを行い口腔内の変化を見逃さないようにしている。変化があれば往診してもらい早めの対応をしている。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表をつけることにより1人1人のパターンを把握し自立してトイレで排泄できるよう支援している。オムツを使用することなくパンツでの生活を支援している	利用者の排泄チェック表を職員は共有し、仕草などから言葉かけや誘導により、トイレでの排泄に繋がっています。状態変化時以外は、利用者全員が布下着を着用しています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤の服用、排泄パターンの把握により便秘の予防に努めている。食事内容・水分量にも十分気をつけ、個々に応じた予防に気をつけている。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本は夜間入浴だが、その時の状況・希望に応じて柔軟な対応をしている。入りたい方は毎日でも入浴出来るようにしている。	夜間入浴を基本に毎日入浴出来る態勢ですが、利用者の要望を受け止め、入浴時間や回数は柔軟に対応しています。浴槽に身を沈め、心地良い就寝となるよう支援しています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中活動し、夜間はぐっすり眠っていただけるよう、生活のパターンを決めリズムを作り安眠していただけるよう支援している。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	病院とも連携をとり薬については職員全員が理解しており日々支援と状況の変化を確認している。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方その方の力を理解しその方が意欲的に力を発揮できるように常に観察し支援している			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近所の系列ホームまで散歩に出かけたり、その方の方の懐かしい思い出の場所に出かけたり、1人1人家族から情報を頂き希望にそった外出を支援している	周辺の散歩や菜園作業、買い物等で、日常的に外気に触れています。時には、家族も参加の外出行事を企画しています。外食や手作り弁当を持参して、行楽地の観光を楽しんでいます。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	額が大きいお金はトラブルがあると困るので持っていないませんが、小銭は所持しており、職員同行で買い物に言ったり、外出先で買い物したりしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話・手紙など本人がの希望に添って支援している。本人と一緒にポストまで投函するなど支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロア内居室前のディスプレイにも1年を通して季節の物を飾ったり、外回りにも一緒に花を植えたりして、安心して暮せるよう配慮している	ホーム全体が広々とした造りになっており、系列のホームと合同の餅つき大会等を行っています。採光や空調、清掃に配慮されており、落ち着いた環境を整えています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	仲よし同士がゆっくり話したり、たまに1人になりたい時は玄関前のイスで外の景色を眺めたりして個々の思いを大切にすることを工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に本人が使い慣れた物・馴染みの物を持ってきてもらい、なるべく本人が落ち着いて暮せるようにしている。	居室の入口の飾り台には、季節に合った手作りの品が置かれています。居室も十分な広さがあり、設置されたクローゼットの中に生活用品が収納され、居心地の良さが感じられます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	書くことが得意な方はメニュー書き茶碗洗いの得意な方は順番にお手伝いしてもらいなどその方その方の力が発揮する場を大切にしながら支援している。		